

自然災害と人間の安全保障
ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センター
阪本真由美

1. 「人間の安全保障」とは

- 人間開発 (Human Development) 国連開発計画 (UNDP) 人間開発報告 (1990 年)
 - ・人間開発「人々の選択の幅を広げるプロセス」
 - ・「ケイパビリティ (潜在能力)」アマルティア・セン
社会的および個人的に与えられた条件のもとで、ひとりひとりが何にできるのか、何になれるのか

- 人間の安全保障 (Human Security) UNDP 人間開発報告書 (1994 年)
「人間の生にとってかけがいのない中枢を守り、すべての人の生と自由を実現すること」「人間開発に対応する選択権の広がりを完全かつ自由に行使できること、そして、今日の選択の機会は今後も失われないという自信をもてることを意味する」

飢餓・貧困・抑圧・感染症などによる「安全が欠如した状態 (insecurity)」をなくす。

「恐怖からの自由」平和構築 (紛争予防・紛争解決・復興開発)
「欠乏からの自由」人間開発

人間の安全保障を構成する 7 つの領域

- ①経済の安全保障 ②食料の安全保障 ③健康の安全保障 ④環境の安全保障
- ⑤個人の安全保障 ⑥地域社会 (コミュニティ) の安全保障
- ⑦政治の安全保障

○人間の安全保障をめぐる議論

- ①カナダによる人間の安全保障戦略
「平和構築」のための人間の安全保障
- ②緒方・セン報告書
人間の生存・生活・尊厳に関する概念

○人間の安全保障の大切さ

「国家」→「人 (個人とその集合体)」を中心に「安全」と「安心」を考える

2. 人間の安全保障と自然災害

○災害は社会現象：気象現象が「災害」と化する過程においては、必ず人為的な側面がみられる。

○自然災害と人間の安全保障に関する4つの要素（UNU, 2012）

- ・人間の安全保障はどのような状況においても存在する。
- ・災害をめぐるすべてのフェーズ（防災/災害対応/災害復興）において人間の安全保障は重要である。
- ・人間の安全（不安全）の根本的かつ直接的な原因を把握する必要がある。
- ・人間の安全に対するさまざまな危機が、どのように相互に作用しているのかを明確にする。

災害時には、人・社会的構造の中に潜在的に存在する問題が表面化する。

→「人」に焦点をあてた、防災・災害復旧・復興策が重要

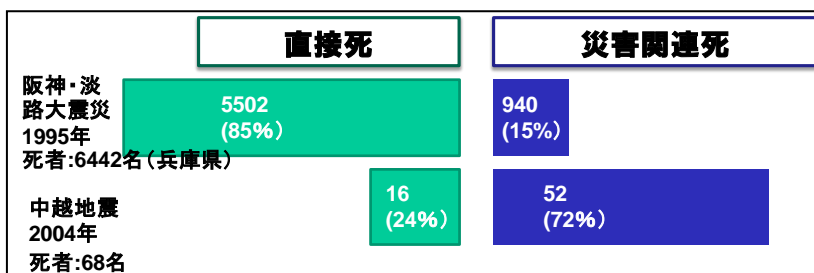
3. 阪神・淡路大震災と人間の安全保障

○阪神・淡路大震災により新たに明らかになった3つの課題
「災害関連死」「孤独死」「災害障害者」

○避難生活における健康被害

- ・避難所での生活環境をめぐる課題
- ・避難生活と災害関連死

（図1）自然災害と人的被害



○仮設住宅と健康被害

・阪神・淡路大震災と仮設住宅

社会的弱者優先の住宅提供→弱者が集中したコミュニティの形成

・仮設住宅における「孤独死」問題

阪神・淡路大震災の孤独死；132名（神戸市・2000年）

「孤独死」：一人で住む人が誰にも知られぬまま亡くなること

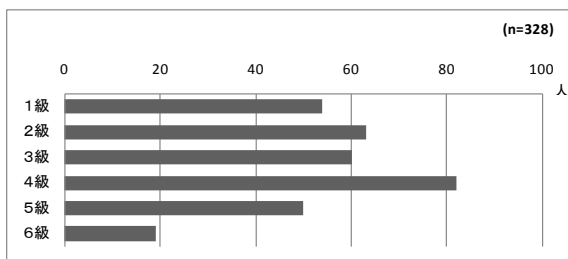
- ・亡くなったものの周囲の人に気付かれない
- ・周囲の人との人間関係を構築できない人が、周囲の人に助けを求められぬまま、何らかの要因により亡くなる

・生活再建支援員(LSA制度の導入)

○忘れ去られた課題「災害障害者」

阪神・淡路大震災による障害者：328名（男性：131名、女性：197名）（兵庫県・2011年）

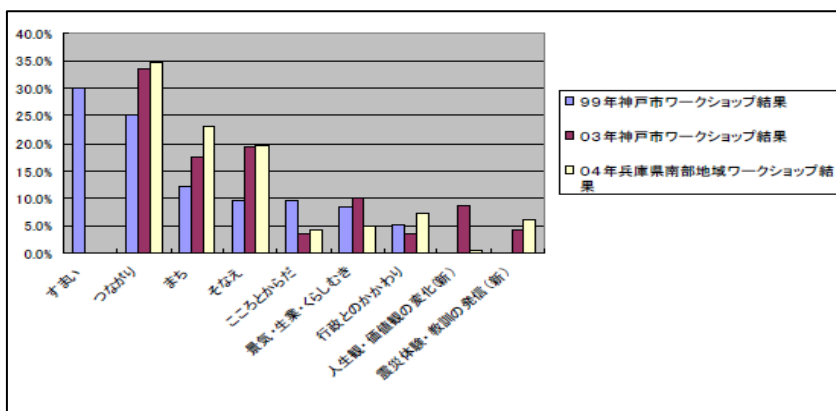
(図2) 阪神・淡路大震災による障害者（等級別）(図3)



○阪神・淡路大震災と被災者の「生活再建」

被災者による生活再建の7つの要素

「すまい」「つながり」「まち」「そなえ」「こことからだ」「暮らし」「行政とのかかわり」



(出所) 立木茂雄「ソーシャルキャピタルと地域づくり」「都市政策」2007

4. 東日本大震災と人間の安全保障

○長期化した避難生活

- ・複雑化した災害対応

(スーパー広域・複合災害：地震・津波・原発・燃料不足)

- ・官民連携による被災者支援

○仮設住宅

- ・阪神淡路大震災の経験に基づく支援策

仮設住宅の入居者選定

LSA の制度化

5. まとめ

「個人」と「社会共同体」の相互関係の重要性：人間の安全保障

「人」を中心に復興をとらえることの重要性